



生物多様性くまもとセミナー



[募 集 案 内]

地球上には 3,000 万種ともいわれる多くの生き物が存在しており、この生き物たちの豊かな個性とつながりのことを「生物多様性」といいます。

私たち人間が生きるために必要な大気や水、暮らしの基礎となる食料などはこの生物多様性がもたらしてくれる恵みです。

生物多様性を護り、豊かな恵みを次世代に引き継いでいくために、私たちにできることは何か、皆さんと一緒に考え、行動していきましょう。

本講座は、生物多様性の最新の動向等を学習するとともに、実際に自然を観察することで生物多様性を身近に考え、感じていただく内容となっております。



1 講座の日程及び内容

	開講日	会場	内容
A	平成29年10月28日（土）	熊本県立大学講義室	座学
B	平成29年11月25日（土）		
C	平成30年1月20日（土）	荒尾干潟、荒尾市中央公民館	野外実習

○受講希望者は、開講日A～Cの中から希望するものを選択してお申込みください。

※複数選択可

○詳しい講座内容は、募集案内3ページ目の「熊本県自然環境講座カリキュラム」をご参照ください。

2 対象者

- ・地域で自然環境保全活動を行っている方
- ・自然環境問題に興味があって今後何らかの活動に取り組みたいと考えている方
- ・事業所において環境分野の地域貢献等を担当される方
- ・環境教育に取り組む教育関係者やNPO関係者など、県民の皆様を広く対象としています。

3 募集締切

講座A、B ⇒ 平成29年10月20日（金）

講座C ⇒ 平成29年12月22日（金）

4 募集定員

各講座60名

※ただし、開講日ごとに応募者数が募集定員を超える場合は、受講者数を先着順で調整させていただきます。

5 受講申込み方法及び申込先

- ①別紙申込書に必要事項を記入のうえ以下の方法によりお申込みください。
- ②申込み後、自然保護課から受講決定通知を送付します。

郵送：〒862-8570（住所は不要）

熊本県環境生活部環境局自然保護課「自然環境講座係」

ファックス：096-384-5135

電子メール：shizenhogo@pref.kumamoto.lg.jp

- ★熊本県ホームページに掲載されている申込書様式に必要事項をご記入のうえ、上記メールアドレスまでお送りください。
なお、メールのタイトルは「講座申込み」としてください。

熊本県ホームページURL

（ http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_21010.html ）

※ 『C』の講座は野外実習となります。申込書の内容に基づき傷害保険加入の手続きを行いますので、『C』の講座を申し込まれた方以外の参加は御遠慮ください。

6 主催

熊本県

7 お問い合わせ

熊本県環境生活部環境局自然保護課

自然環境・公園班 担当：本山

電話：096-333-2274（ダイヤルイン）

メール：shizenhogo@pref.kumamoto.lg.jp



（昨年度開催のようす）

8 個人情報の取扱い

この講座に関する連絡・通知のほか、自然保護課が主催及び後援する自然保護関係の啓発事業などの御案内に使用させていただくことがあります。



【平成29年度 熊本県自然環境講座カリキュラム】

開講日		時間	テーマ	内容	講師	会場
A	平成29年 10月28日 (土曜日)	講座1	13:30～ 15:00 (90分)	熊本の希少な昆虫の生態と 自然保護	熊本県の指定種、レッドデータブック掲載種をはじめとした、県内の希少な昆虫の特性や希少な昆虫を守るために私たちができることなどについて学びます。	寺崎 昭典 氏 (フィールドリサーチ代表)
		講座2	15:10～ 16:40 (90分)	九州における外来種対策の 現状と課題	ヒアリ、ツマアカスズメバチ、アライグマ、クリハラリス、オオキンケイギク、スパルティナ属など... 熊本をはじめ九州の生態系等に影響を及ぼす外来種の実態とその対策について学びます。	立岩 沙知子 氏 (九州地方環境事務所 野生生物課)
B	平成29年 11月25日 (土曜日)	講座3	13:30～ 15:00 (90分)	五木五家荘の植物は今	九州中央山地、五木五家荘など豊かな自然が残る、県南地域の生態系や希少な植物、シカの食害、自然の遷移について学びます。	富田 壽人 氏 (熊本県希少野生動植物 検討委員)
		講座4	15:10～ 16:40 (90分)	熊本県の沿岸生態系と生物多様性	熊本県沿岸域における底生生物からみる、生物多様性及び保全対策について学びます。	森 敬介 氏 (国立水俣病総合研究 センター)
C	平成30年 1月20日 (土曜日)	講座5	10:00～ 12:30 (150分)	ラムサール条約登録干潟の野鳥と 熊本県の現状	多数の渡り鳥が、中継地または越冬地として飛来し、滞在するラムサール条約登録湿地「荒尾干潟」で野鳥の観察をします。 また、荒尾干潟の野鳥及び県内の野鳥の現状について学び、生物多様性を考えます。	坂梨 仁彦 氏 (熊本県希少野生動植物 検討委員)

熊本
県立大学

熊本
県立大学

荒尾干潟
荒尾市中央公民館